

第8回香川・高知両県知事会議

開催日：令和6年5月7日（火）15:45～17:00

開催場所：J Rホテルクレメント高松3階「玉藻」

○ 司会

ただいまから、「第8回香川・高知両県知事会議」を開会いたします。本日、進行役を務めさせていただきます、香川県政策部長の尾崎でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして、開催県の池田知事からご挨拶申し上げます。

○ 香川県 池田知事

皆さんこんにちは。濱田高知県知事には、遠いところを香川県までおいでいただきまして、誠にありがとうございます。そして、先月、発生しました、高知、愛媛両県で震度6弱の地震がございました。被災された方々に改めてお見舞いを申し上げたいと思います。早い復興をお祈りし、また必要なご支援については、ご遠慮なくおっしゃっていただければというふうに思います。

そして、今日は、この会議に先立ちまして、濱田知事にも国立療養所大島青松園と一緒にご訪問をいただきました。濱田知事と私と一緒に、この無念の中で、大島でお亡くなりになりました、入所の方々のご冥福をお祈りさせていただきました。私も4度目の訪問になりましたが、二度と同じ過ちを繰り返してはならないという思いを強くいたしました。そして、会長様、副会長様ともお話をし、これから交流をこれまで以上に活発に、というお話もいただきましたので、その思いも新たにいたしました。そして、会長様、副会長様ともお話をし、これから交流をこれまで以上に活発に、というお話もいただきましたので、その思いも新たにいたしました。

話は変わりますけれども、今年は、香川県民にとって「いのちの水」であります、香川用水が通水して50年を迎えます。高知県の方々のご厚意、「友情の水」という呼ばれ方もしております。このような、四国は1つの心で、高知県の皆様のご理解を得て、50年前に水不足で大変困っていた香川県が、この香川用水の通水で、生活、産業が大きく変貌を遂げることができました。このことを、県民が思いを新たにしまして、先人の方々への感謝の気持ち、そして、これからも高知県、そして徳島県の両県への感謝の気持ちも新たに、また次の世代にも引き継ぐために、この50周年の記念のセレモニー、イベント等を考えておるところでございます。

今日は、高知県知事さんと災害の問題、それから骨格となる交通網の問題、新幹線、高速道路、それから、先日も全国的な会合がありましたけれども、人口減少の中で、特に地方部の持続的な発展が懸念されているところがございますが、こういった問題にどう対応していくか。そして、コロナの終息を間近に迎えた今、観光の復活が動いておりますけれども、四国全体として、特に香川・高知が連携した観光誘客の取組みなどについてお話、対話をさせていただき、次に繋がる今日の成果も得たいと思っております。

で、何卒よろしくお願ひしたいと思ひます。

短い時間ですけれども、是非建設的な意見交換になるようにお願ひ申し上げまして、歓迎のごあいさつさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

○ 司会

ありがとうございました。続きまして、高知県の濱田知事からご挨拶をお願ひいたします

○ 高知県 濱田知事

高知県の濱田でございます。本日は池田知事様をはじめといたしまして、香川県の皆様、本当にありがとうございます。8回目になります「香川・高知両県知事会議」ということでございまして、今回、香川県の皆様方に大変なお骨折りをいただきまして開催できますことを心から御礼を申し上げます。

これまでも、両県の課題、展望につきまして意見交換を行ひまして、また、これに基づきまして、具体的な取組みを進めるという形で成果を上げてこられたというふうにお思ひしておりますし、ただ今、池田知事からご紹介いただきましたように、会議に先立ちまして、国立療養所大島青松園の見学もさせていただきました。これにつきましては、先般、高知の県議会の中でもやりとりがありました中で、私も機会を得て、是非一度訪問してみたいという話をさせていただいたところございまして、今回、香川県の皆様にご相談をさせていただいた中で、訪問が実現できましたこと、大変うれしく思ひしております。どうもありがとうございました。そうした中で、今も池田知事からもお話ございましたように、一時期の行政によります誤った政策によりまして、大変な苦痛を感じられる中で、多くの方々のご労苦を重ねられたと言う事につきまして、改めまして思ひをいたしました。また、今日は入所者の方々の中の高知県人会の代表の方、自治会の副会長されております、野村さんとの意見交換や話し合いもさせていただく中で、野村さんが非常に大変なご苦労された中でも、特に近年はいろんな形で外部との交流も盛んになって、ということ喜んでおられて、大変前向きに頑張つていただいているということ、また、毎日、高知の地元の高知新聞を熟読していただいているというお話を伺ひまして、ふるさとの熱い思ひも共感をさせていただくことができまして、大変貴重な訪問ができたと思ひます。どうもありがとうございます。

また、池田知事からは、香川用水のお話がございました。早明浦ダムが完成をして50年の節目でございまして、先般は、池田知事自ら早明浦ダムの再生プロジェクトの開始の式典に、ご足労いただきまして本当にありがとうございました。地元といたしましても50年という節目の中で、このダムを、地域の観光も含めた活性化に活かしていこうということで、いろいろな取組みをしている中でございまして、また別の機会に四国各県の皆様方とこの早明浦ダムの意義などについて、また、共通の理解ができる機会が

設けられればよいというふうに思っているところでございます。

そして本日は、ただ今お話いただきましたように、先般の能登半島地震を踏まえまして、南海トラフ地震対策でありますとか、人口減少対策、そして、四国の高速道路ネットワーク、あるいは鉄道網整備などなど、共通いたします課題について、意見交換をさせていただければありがたいというふうに存じます。お話にもございましたように、観光面での連携、交流というところも含めまして、高知・香川両県の一層の連携を深める中で、お互いがある意味ウィンウィンの関係で、ともに発展をしていけるということは本当にありがたいことだと思っております。本日も、そうした取組みに向けました、有意義な意見交換ができることを祈念いたしまして、池田知事にはどうか忌憚のないご意見をいただけますようよろしくお願い申し上げます。今日はありがとうございます。

1 南海トラフ地震・津波対策の強化について

○ 香川県 池田知事

ありがとうございます。それでは早速、意見交換の方に移らせていただきます。まず今、お話がありました「南海トラフ地震・津波対策の強化」についてでございますが、まず私の方からご提案をさせていただきます。正月の能登半島地震ですけれども、改めて津波への対応、そして木造住宅の耐震化が急がれるということ。それから、今回は道路の寸断による集落の孤立化、そして復旧の遅れ。これが非常に今もまだ尾を引いている状況であるかと思えます。そして、水道施設がやられたことへの復旧の時間かかっていること。それから以前よりは、改善はされておりますけれども、やはり避難所の生活環境の改善、このようなことがこの地震でも明らかになり、今後、ハード・ソフト両面から、このような対策が望まれておると考えております。

そして特に、このハードについては、この道路の寸断による問題、これは幹線道路の4車線化といったものを着実に進める必要がありますし、法面对策も着実に進める必要がありますけれども、その根っこにありますのが「国土強靱化のための5か年加速化対策」であります。これが令和7年度に終了予定ということで、来年度が最終年度であります。5か年の計画でありますけれども、既に85%が実施され、予算的には実施済みになって、15%の予算しか残っていないということです。このままでしたら、来年度にペースが落ちるということになります。是非、来年度に新しい5か年計画、法律改正が昨年の通常国会でありましたので、「国土強靱化実施中期計画」という名前の計画を法定計画で作る、ということになっておりますので、是非この計画を、令和7年度を初年度とする計画にしてもらえるように、これは高知県知事と、また他県についても協力して、国の方に夏以降のいろいろな場面で訴えかけていってはどうかと考えております。是非この点についてのご意見をお聞かせいただきたいと思っております。

その次には、南海トラフの際には四国4県の被害が想定されておりますけれども、どういう被災になるかということは、実際に起こってみた場合のいろんな状況の想定が何

通りもあるかと思えます。いずれにしても、この四国4県が協力する必要がありますので、現在、「四国4県広域応援に関する基本協定」というものを結んでおりますけれども、これの実効性が上がるように常に4県の中で、実際に起こったときにどのようなことになるかというシミュレーションをし続けることが大事だと思いますので、この点についても積極的に今後とも一緒に、このシミュレーションを行っていきたいと思っております。この点について、改めてこの機にお願いをしたいと思えます。私からは以上でございます。

是非、知事の方から、「南海トラフ地震・津波対策の強化」についてのご意見をいただければと思えます。

○ 高知県 濱田知事

ありがとうございます。今、池田知事からご指摘がありましたように、今年の元日に発生しました能登半島地震におきましては、半島という地域特性もありましたけれども、特に沿岸部であったり中山間地域であったり、こういったところが大きく被災をしまして、高知県の立場からしましても、決して人ごととは思えないということでございますし、その中で特に孤立地域の解消、ライフラインの復旧を遅らせる原因になったのが、幹線道路が被災をして寸断された、ということでございますので、特に道路網の整備ということについて、これを加速していくこと。あるいは半島部にあります、道路につきまして、より高規格化を図っていく道筋をしっかりとつけていくこと。こういったことが重要ではないかという思いを強くしているところでございます。

そういう意味で今お話がございました、「国土強靱化のための5か年加速化対策」は、池田知事からもお話があったとおり、令和7年度が最終年度ということでございますけれども、令和6年度までが、いわば均等割のペースよりも前倒しで実施をされておりますので、令和7年度を最終年度とする5か年という実質的な意味があまりなくなっているということだというふうに思えます。そういう意味ではお話にありましたように、1年前倒しの形で、令和7年度を初年度とするような法定の新しい中期計画を策定していただくというのは、ごもつともだというふうに思えます。そして新しい計画を作る中で、さっきの能登半島地震の経験を踏まえた道路、河川、あるいは水道の管渠、こういったインフラ整備を今まで以上に加速をしていくという中身をしっかりと盛り込んでいく、そのための財源を別枠で確保していくという方向で、是非対応すべきではないかというふうに思っております。

その意味では当面、この夏の骨太方針でこういった方向性、道筋がある程度明らかにできて、それを踏まえて、年末に令和7年度を初年度とするような新しい中期計画を作ってください。そして、これも念願でありますけれども、補正予算ではなくて当初予算で、こういった強靱化予算を安定的に確保していただくと、こういった方向での努力、取り組みが大いに求められているというふうに思っております。そうした意味で、この5

か年加速化対策後も、地方債の事業として緊急防災・減災事業債を継続するという問題も含めまして、お話いただいたような新しい国土強靱化の取組みをこの夏から年末にかけて、しっかりと後押しをしていくということを、各県のレベルでも手を携えて提言をしていく、国を動かしていくということに大いに賛成をさせていただきますので、具体的な取組みなどについて、またご相談をさせていただければというふうに思います。よろしく願いいたします。

○ 香川県 池田知事

ありがとうございます。骨太方針が最初の局面にあると思いますので、私もまた中央の方への要望も強めていきたいと思います。是非、濱田知事にもお願いしたいと思います。

2 四国地方の高速交通ネットワークの整備促進について

○ 香川県 池田知事

それでは次の議題、「四国地方の高速交通ネットワークの整備促進」について、濱田知事の方からご提案をお願いします。

○ 高知県 濱田知事

これは池田知事には、釈迦に説法の話になりますが、いわゆる四国の8の字ネットワーク高規格道路網の整備につきましては、この地域の経済活動を支える、そして防災の面でも非常に重要な社会インフラでございます。本年度、高知県におきまして、残る2区間、東西1区間ずつが未着手で残ってございましたけれども、西の宿毛内海道路、そして東の奈半利安芸道路、これがいずれも新規に事業化をしていただきまして、高知県内の8の字ネットワークも全線着手、着手率で100%というところまでいきまして、この点は大変うれしく思っておりますし、四国4県の合同の提言活動という形でご尽力をいただきました、香川県さんにおきまして、香川県さんはもう100%整備率であります。高知県はまだ6割ちょっとということで、この整備率の足を引っ張っておるところでございますので、この点、香川県さんのお力添えもいただいて着手率で100%まで行ったということについて、心より御礼を申し上げたいと思います。

先ほどの地震対策ということでも出てまいりましたけれども、やはり災害に強い道路ネットワークの重要性というのが、能登半島地震を通じて、改めて認識されたということだと思っております。その意味で、高知県の場合、県外からのいざというときの救援の部隊とか物資の派遣の中心、幹線となるのが、四国8の字ネットワークということでございまして、この整備を大いに急ぐ必要があるということだと思っております。この南海トラフ地震などの大規模災害への備え、そして観光や産業振興による地域経済の活性化、この両面で、この整備の加速が求められているということだと思っております。

着手率が100%になったということは大変うれしいニュースでありますけども、これに気を緩めることなく、1日も早い四国8の字ネットワークの整備、開通の促進に向けまして、引き続き、四経連も含めた四国4県合同の提言活動にも積極的に取り組んでまいりたいと思っております。

道路行政にも大変精通されております池田知事にも是非ご助言、またご協力をいただければありがたいというふうに思いますし、私といたしましても、全国高速道路建設協議会の副会長という役もいただいておりますので、この全国の高速度道路網の必要性を訴えまして、必要な予算、財源の確保に努めてまいりたいと思っております。よろしくお願ひしたいと思っております。

○ 香川県 池田知事

ありがとうございます。今、8の字ネットワークについて、県内全線着手が実現したというお話を聞き、大変うれしく思っております。私も道路局長時代に力を入れてやってまいりましたが、力不足で全線着手に及ばなかったところがあり、大変申し訳なく思いますが、その分また違う形で早期の全線完成に向けて、私自身もまた取り組んでまいりたいというふうに思います。

特に、宿毛のところが繋がってくるということは、宿毛港という、昔は軍港だった宿毛港が、またこういう高速道路が繋がることで、四国4県に及ぼす経済効果もあると思っておりますし、阿南安芸道路も、難所の奈半利安芸のところが今回着手になりましたが、あのルートが繋がってくれば、高知の高速道路は、地形的にも非常に厳しいところですが、そういったところが土砂崩れ等で通れない場合に、徳島周りというようなそういうダブルネットワークになることの価値は非常に大きいと思っております。早期の完成に向けて取り組んでまいりたいというふうに思います。

やはりこの間の能登半島を見ても、高速道路の有る無しで復旧のスピードはもう断然違ってくるということです。やはり、地震が来るのが先か、高速道路ができるのが先か、とこういう問題だという、そういうことを道路局長時代も何度もお聞きをして本当に胸に刺さる思いがしましたが、そういうような思いを四国の一員として、また道路局長の経験者として中央の方に引き続き繋げていきたいというふうに思います。ありがとうございます。

3 人口減少対策について

○ 香川県 池田知事

次に、「人口減少対策」につきまして、これも濱田知事の方からご提案をお願いします。

○ 高知県 濱田知事

人口減少に関しましては、つい先だっても人口戦略会議が、また10年前に続いて「消滅可能性自治体」というような言葉も引かれまして、国家的にも、いわば静かな有事と言われるような、非常に危機的な状況にあるんだというお話がございましたけども、各自治体におきまして、特に高知県のような中山間地域が多い、過疎化が進んだ地域におきましては、人口減少問題が本当に、将来を左右する最重要課題になっていると言っても過言ではないと思っています。

高知県の場合も、残念ながら令和4年度の赤ちゃんの出生数が全国47都道府県で、最下位になってしまうというような非常にショッキングな出来事もございまして、昨年度末、今年3月には、「高知県元気な未来創造戦略」という、人口減少対策のマスタープランを作りまして、この人口減少の克服に向けました取組みの抜本強化をしようということで、取組みを始めたところでございます。

大きな目標としましては、人口全体の総人口は、高齢化が進む中でなかなか反転が難しいということではありますが、まずは35歳未満の若年人口、これがここ50年近くずっと減少してきておりますが、これを何とか4、5年後までに歯止めをかけて、概ね10年後には今の水準まで戻していく、反転させていくと。これはかなり高いハードルでありますけども、これを目標として掲げまして、特に若者の定着増加、そのために若者に魅力のある仕事をふやしていくということ。そして、婚姻数を増加させ、また出生数を増加させていく。こういったいわゆる少子化対策を進めていく。こうした観点から、対策のギアを一段引き上げて取り組むということにいたしているのが、今の高知県の現状でございます。

こうした高知県の現状を踏まえまして、特に今、国に対して、3点について、政策提言を行いたいと思っておりますので、是非ご趣旨にご賛同いただきましたら、一緒になって取り組んでいただければありがたいと思います。

1点目が、特に地方におきます若者の定着増加に向けました大都市機能の地方への移転、分散、これを改めて力を入れて取り組むべきではないかということだと思っております。地方の人口減少問題の対応、若者に魅力のある仕事を作っていくということも考えますと、今、またコロナ後、再び進みつつあります大都市圏への一極集中、東京圏への一極集中を是正して、大都市機能の地方分散を図っていくということが大事ではないかと思っております。10年前にも安倍政権のときに、大学であったり、企業であったり、政府関係機関であったり、こういったものを東京圏から地方に移そうというかなり意識的な

努力がされたわけでありますが、その後も残念ながら東京圏への一極集中に歯止めがかかっていないということでございまして、こういった大都市圏の機能の地方移転について、改めて省庁横断的な組織を創設して、具体的に検討するという国に提言したいというふうに思います。これには実現にはかなり時間かかるということだと思いますが、当面の対策としては、地方大学の定員増をしていく、企業の地方移転に向けた税制優遇を強化する、併せて、デジタル化などを進めて地方の経済の活性化を進めて、若者に魅力のある職場づくりをサポートしていく、こういった取組みを国に対して求めたいというふうに思っています。

大きな2点目は、国全体としての少子化対策の充実強化でありまして、この少子化対策は、国が行うべきこと、地方が行うべきことをしっかりと適切に役割分担をしていくということが肝要ではないかというふうに思っています。そうした意味で国に是非求めたいと思いますのは、例えば子ども医療費の助成制度であったり、県レベルで見ますと、私学の実質無償化であったり、こういった経済的支援の基幹的な部分、幹になる部分、これについては、是非、国が全国一律で制度を設計して、実施を図っていくということが望ましいのではないかと。これは各地方に任せると言いますが、結局財政力があるところはできますけども、高知県のように財政力が乏しい県では、なかなか大都市のこういった子育て支援策、独自施策に付いていくということが財政的に難しいということがございますので、こういった基幹的な部分は国がしっかりと制度を設計して、財源も準備をし、地方の方が例えば中山間地域にきめ細かな配慮をするとか、いろんな分野横断的に連携が取れる取組みをしていくとか、こういった補完的な役割を地方が果たして、子育て支援を国と役割分担のもとで効果的に進めていくというような体制が、望ましいのではないかとこのように思っております。

そして3点目が、こうした人口減少対策を地方が行うことについて、必要な財源の確保ということでございます。今まで地方の一般財源が実質同額ルールというのが続いてきておりますが、いよいよ脱デフレとも言われる中で、給与関係経費とか、社会保障関係経費が、地方財政でも増加して参りますので、必要な一般財源を十分確保することが必要だというふうに思っておりますし、特に昨今はデジタル化が社会全体で進む中で、大都市に税収がさらに集中すると、こういった構造的な課題が顕著になっているのではないかとこのように考えます。そうした意味で、いわゆる地域間の税源の偏在を是正するための措置を改めて検討すべき時期に来ているのではないかとこのように思っておりますし、こうした点について、国に提言をして参りたいと思っておりますので、ご賛同いただける部分について、一緒に取り組ませていただければというふうに思います。よろしく願いいたします。

○ 香川県 池田知事

ありがとうございます。人口減少の問題は地方、香川や高知のみならず、日本の最大の懸案課題であるというふうに私も思います。そして、今、濱田知事がおっしゃったように、国と地方で分担して、全体として取り組んでいかなければいけない問題であると思います。

地方の方では、特に子育て世代もそうですし、高齢者もそうですが、孤独感が強く居場所がないというようなことがもうあちこちで言われておりますので、そういった居場所づくり、地域の繋がりづくり、こういったものは、地方の取組みとしてしっかりと取り組んでいかなければいけないと思います。

一方で、この問題は国策としての取組みというのは、不可欠であると常々思います。その中で、今、濱田知事がおっしゃった点で私も大いに賛同する部分があります。1点目は、いわゆる東京一極集中、大都市集中の流れを変えて、分散型国土にしていくこと、これが最も大事な政策であると思います。出生率一つとっても、東京の一部の自治体では1を切っている、地方も下がっていますけれども、地方は1.5に近いような出生率が今でもあるわけで、それを一つとってみても地方に人が移ることが出生率の回復にも繋がるのはもう自明であります。そのために、やはり企業を地方に展開する、特に今の情報関係の産業については、若い方のそういった方面への志向も強いことから、地方にできるだけ展開をする。それから、もう1つは本店機能、こういったものも地方に移りやすくする。いろいろな税制でありますとか、移転のための助成、こういったものを本気で拡大させて、国策としてそういったものを本気で拡大させることで、情報関係を含めた企業が地方に移る。また、本店機能も移る。こういったことは、実現可能であるし、一番急がれているということであるというふうに思います。

それからもう1つ、いわゆる子育て全般に係る経済的負担をいかに軽くしていくか。これは今政府の方での動きがようやく見えてきておりますけれども、まだ、特に0歳から2歳の生まれてすぐの期間への手当、それから特に大学の学費の問題、こういったところが、出産をためらう原因になっている。こういったところは、これからのお国の方での政策の展開が必要であるというふうに思います。

引き続き、一極集中の反転、それから経済的な支援の子育てに関するさらなる拡充、この点については、是非、私からも強く訴えていきたいと思っておりますし、地方の知事として濱田知事とまた一緒に、中央に訴えていきたいというふうに思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

4 四国における鉄道ネットワークの維持と四国の新幹線の早期実現について

○ 香川県 池田知事

それでは次に「四国における鉄道ネットワークの維持と四国の新幹線の早期実現」について、こちらについては、まず私の方から提案をさせていただきたいというふうに思います。

まず、在来線の問題ですけれども、このJRの在来線、そして香川にはことごとという私鉄もございます。こういったものが、これからの地方の、先ほどの分散型国土の形成に向けて不可欠であるということは、もう自明であるというふうに思います。これは現在、国の方でも、「地域公共交通活性化再生法」の施行がされて、ローカル鉄道について、国も入り、自治体も入り、いわゆる鉄道事業者だけじゃなくて、国、地方公共団体が入った形で、今後どうするかということを考えていくという、そういうことが示されたわけでありまして。これ自身の方向としては、私は間違っていないと思います。

その一方で、この在来線なり、そういう経営の厳しい私鉄線が、経済的な考え方の中で無くなっていくようなことはあってはならないというふうに思います。やはり、その定住ができるための必要なものであれば、公共的な支援を拡充しても、在来線あるいは施設については残すことを前提にした、そういう議論がされていくべきであるというふうに考えております。JR四国の経営について、もちろん香川県としても、引き続き国による積極的な関与、支援を継続するよう働きかけて参りたいと思いますし、私鉄も含めて、特に施設の更新、それから車両の更新、こういったものについては、必要最小限の公共の支援を躊躇なく行っていきたいというふうに考えております。

それから、新幹線でございますけれども、昨年の骨太方針で、初めて基本計画路線について、国での取組みの記載がありました。一歩前進ということで、これは四国4県の知事もそういう認識を共有したところがございます。そして、その流れの中で、今、期成会、経済界が中心になって形成している「四国新幹線整備促進期成会」がありますが、ここで署名活動もスタートすることとしておりまして、四国の新幹線実現に向けた機運の醸成、これも昨年から新たな局面で進んでいるというふうに認識をしております。

直近に公表された国の調査結果の中では、全国の基本計画路線の今後の進め方がまとめられております。四国の地名が入った形では記載がありませんけれども、中身を見ると四国を念頭に置いた今後の進め方についてが、いくつか認識、認められるところであります。是非、この考え方をさらに進展させていくような国による調査の継続を、引き続き求めていきたいと思います。併せて、基本計画路線ですけれども、次の法定調査に格上げする必要があるわけでありまして。今、北陸新幹線、北海道新幹線、九州の西、長崎に向かう新幹線、いずれももう終盤戦を迎えているわけですので、その次の基本計画路線の進展をもういよいよ進めるタイミングになってきていると思います。

是非この点について、濱田知事を初め四国4県が一致団結をして、法定調査への格上げについて、また夏以降もう一段階の運動を進めて参りたいと思いますので、是非協調

した取組みをお願いしたいと思います。私から以上でございます。濱田知事、よろしく申し上げます。

○ 高知県 濱田知事

ありがとうございます。まず、四国の鉄道ネットワークの維持に関してであります。今、池田知事からもご紹介ありましたように、国の方で新しい地域公共交通確保の法律もできまして、この法律に基づいて、広島県、岡山県では、具体的な協議も始まるという段階にありますけれども、JR四国については、それ以外の本州各社、あるいはJR九州とは状況がかなり違うのではないかという点について、十分留意が必要じゃないかというふうに思います。

JRの四国は、JR西とか東、JR東海などと違いまして、国鉄の分割民営化が行われ、発足した当初から継続的な営業赤字が見込まれていると。いわば、通常の実力では、赤字構造だということは、要は覚悟の上で経営安定基金の運用益といった国の財政支援で収支均衡を図ると、そういう前提で設立をされております。そういう意味で、新幹線といった収益があったり、あるいは都市部の黒字路線を有しているといった、他のJR各社とは、もともとJR四国は成り立ちが大きく違っているということでございます。そうした経緯がありますことから、現実にはJR四国の今の路線の経営状況を見ましても、ほぼ全部の路線が赤字だというのが現実の姿だということだと思いますので、やはりこの四国におけます、公共鉄道網の維持については、国がしっかりと責任を果たしていく。財源を含めた路線維持に関する支援策を講じるということが基本線として、まず必要だという認識をしているところでございます。具体的に経営状況が悪い路線についての議論ということが、JR四国も関心をお持ちだということは十分理解しておりますけれども、これも池田知事からお話ございましたように、やはり四国の鉄道ネットワークをどう維持していくかと、そういう観点から、いろんな考え方を闘わせ、また、道を見つけていくと、いうことが大事ではないかというふうに思っておりますので、そうした観点から、引き続き四国4県で手を取り合ってこの問題については、対応していければありがたいというふうに思っております。

それから新幹線の問題についてであります。昨年の夏には、四国新幹線の整備促進期成会が東京大会を開催しまして、4県知事が勢ぞろいをして、600人以上が参加ということで、近年にない盛り上がりを見せていると、この四国新幹線実現に向けては見せているというふうに考えられると思います。これもご紹介ございましたように、国の方では昨年の夏の骨太方針で新たな方向性が出まして、その意味で、今、池田知事からお話もありませんような、四国新幹線を整備計画に格上げをしていくということに向けた、いわゆる法定調査を早期に実施をしていく。これに向けて今が非常に大事なタイミングになっているというふうに認識をしています。各県でこの法定調査の実施に向けての機運を醸成していくということも、大変大事な取組みだと考えておまして、本県でも、ただ今お

っしやいました東京大会、あるいは4県連携の事業に取り組んでおりますほか、地元の経済界、土佐経済同友会と連携をした県民の皆さん向けの啓発のイベントなども、周知を行っておりますし、今年度は県独自で、まず新たな気運醸成のためのPR事業もやっ
ていこうというふうと考えております。

この四国新幹線の実現に向けて、引き続き期成会や経済界などと一緒になりまして、機運の醸成を図っていくということ。そして四国4県が一致団結して働きかけていくということについては私も大賛成でございますので、是非そうした立場で、ご一緒に取り組みができればというふうと考えております。

5 外国人観光客の香川・高知周遊促進について

○ 香川県 池田知事

ありがとうございます。是非よろしく願いいたします。それでは次の5番目ですが、「外国人観光客の香川・高知周遊促進」について、これは濱田知事の方から、まずご提案お願いいたします。

○ 高知県 濱田知事

ありがとうございます。いわゆるインバウンドの外国人観光客の方々の周遊促進ということについてでございます。これまで両県で連携をして、共同のセールスなどに取り組んで参りました。これが成果を上げておりますことについて、御礼を申し上げたいというふうに存じます。

おかげさまで高松空港などを利用した上で、本県に周遊していただく、そうした外国人観光客も増加をしております。昨年5月には、台湾と高知との間で定期チャーター便が、週2便でございますけども就航したというようなプラスの要素もありまして、昨年、令和5年の高知県におきますインバウンド、外国人の延べ宿泊者数はコロナ前をはるかに上回りまして、過去最高となる見込みということでございます。

やはりこの台湾との定期チャーター便を誘致してみまして痛感いたしますのは、こうした形でインバウンドの観光客に数日間楽しんでいただくというためには、四国4県が連携をして、四国4県それぞれの強みを持ったコンテンツを周遊していただくというような仕掛けが是非とも必要だということでもあります。その意味で、外国人観光客の誘客の一層の促進に向けまして、引き続き、香川県さんとの連携をお願いしたいというふうに思います。本県で誘致しております定期チャーター便の中でも、例えばこんびらさん、栗林公園、小豆島、こういった香川県さんの名所を周遊していただくツアー商品の人気非常に高いところでもあります。今後もそれぞれの空港を起点といたしました両県を含むツアーコースを造成していくということ。そして、お互いの魅力をそれぞれに紹介し合っていくということ。こうした連携した取組みによりまして、周遊の促進を図り、両県ともに、このインバウンド観光客が、さらに増加をしていくようにという点で協力を

させていただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

○ 高知県 池田知事

ありがとうございます。高松空港の国際線は、ソウル、台北、香港、上海と4路線、コロナ前にありまして、コロナのときに全部運休になりましたけれども、徐々に再開になりまして、4月2日から最後の上海線の再開も実現をいたしました。ほぼコロナ前の週23便程度、ほぼ回復をしたところでございます。これからこの路線が外国人の四国全体への誘客に、大きな力を発揮できるのではないかなというふうに考えております。

一方で、昨年の外国人の宿泊数については、香川県においては、まだコロナ前の、昨年12月まで1月から12月では、6割ということ、国内の観光客はほぼコロナ前に戻ったのに比べまして、まだ戻りきれてない。上海線の再開が遅れたこともありますし、その便以外に、中国の経済の失速もあるように推察されますけれども、まだ戻りきれてないということで、さらなるこの誘客が大事になってくるというふうに思います。

そして、やはりインバウンドのみならず、全国からの観光もそうですけれど、1県だけではなかなか限界があるというふうに思っております。いろんな方からもやっぱり四国全体での誘客が一番大事だろうということで、四国は面積的にも非常にコンパクトですので、やはり訪れた人が1県だけというわけことではなかなか訪れないということで、複数の県を跨った観光の誘客を考えていくことが、これからより求められるというふうに考えております。今、四国ツーリズム創造機構、半井さんが代表で取り組んでおられますけれども、そこでいろいろな四国4県を巡る観光商品の創造や販売促進、こういったものをやってもらっております。この四国ツーリズム創造機構と連携して、四国4県の全体での誘客を、香川県としても、連携した取り組みをしていきたいというふうに思います。

そして、それにも関係しますけれども、今JR四国さんの高知県を中心とした「志国土佐時代の夜明けのものがたり」、この観光列車も非常に好調で、売り出すとともにほぼすぐ売り切れるというようなことも聞いております。このようなものを、これからもさらに拡充するようなことや、これを利用してさらに周辺にも広げるようなこと、こういったものを、JR四国さん、そして先ほどの四国ツーリズム創造機構と、連携して取り組んで参りたいというふうに思います。また四国4県の知事会議の中でも話題になってくるかと思っておりますけれども、是非この四国というくくりで誘客に力を入れたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

そうしましたら、5つ予定していた議題は以上でございますが、全体を通じて、濱田知事何かありますか。

○ 濱田知事

特にございません。

○ PR項目

○ 香川県 池田知事

あと残りの時間は、それぞれの県のPRの内容で発言をしたいと思います。恐縮ですが、私の方から2点ほど、お知らせ、PRをさせていただければと思います。

まず冒頭の挨拶でも述べさせていただきましたが、香川用水の通水50周年になります。是非、この香川用水の恩恵を、もう一度、県民自身が思いを新たにして後世につなげていく。また、高知県はじめとする、関係県へのお礼の気持ちを、また再認識する。こういうことを、この機に行いたいと思います。具体的には、記念式典と関連イベントを予定しております。記念式典は7月29日に、このサンポートの建物の隣にサンポートホールというのがありますけど、そこで行いたいと思っております。是非、濱田知事にも、ご案内させていただきますので、ご多忙とは思いますが、お越しいただければありがたいと思います。それから、関連のイベントは、香川用水というふうに今言っても、もう50年経って、その用水施設というのが、じゃあ何なのかというのも、実際見たこともない県民も含めて、たくさんになってきていますので、是非この機に香川用水の施設、水路だったり通水したトンネルの出口だったりするわけですが、私もその通水が毎年6月にありますけれども、その式典に行くと、トンネルを出て香川用水の水が水路を勢いよく流れる姿を見ると、非常にこの香川用水のありがたさを再認識できるわけですが、そういうものを、是非多くの方に見てもらえるような、そういうツアーなり、ウォーキングイベントなりを考えていきたいというふうに予定をしております。これが1点でございます。

それからもう1点は、もうスタートしましたが、今年は瀬戸内海国立公園指定の90周年に当たります。国立公園が全国で霧島と雲仙。その指定された最初の1つが、この瀬戸内海国立公園で、これが屋島の近辺と岡山の鷲羽山とかが、まず最初に指定をされました。これを契機として、是非これも瀬戸内海の、今日も船で大島に行ってくださいましたが、その静かな海と島、波ということで、今、外国の方にも関心を高めていただいていますけれども、その眺望なりの、その素晴らしさを県民の方にももう一度再認識してもらい、また高知県さんをはじめ周辺の方にも、もう一度また見てもらう。で、さらに、豊かな自然、いわゆる海の恵みもありますが、そういったものを守っていくことを頭に思い出してもらおうこと。それから、そのよさを後世につないでいかないといけないということも思い出していただく。こういったことを目的に、いろいろなイベントを今年は考えております。1つは、香川の高松の東側に、津田の松原という景勝地がありますけれども、そこで8月に大規模な花火大会を予定しております。通常、毎年600発ぐらいの花火なんですけど、今年は3,000発ほど上げて、この瀬戸内海をバックの花火も考えておりますので、そういったものをきっかけに高知県の方にもおいでいただいて、いろいろな海岸からの風景、また島の風景も楽しんでいただければというふうに思います。いろんなところで広報をしますが、是非また知事さんの方からも、そういうイベン

トがあるよという話をしていただければありがたいと思います。

すいません。長くなりましたけれども、私からは以上でございます。濱田知事より、よろしく申し上げます。

○ 高知県 濱田知事

ありがとうございます。そうしましたら私の方からも、本県の観光のPRを若干させていただければというふうに存じます。

高知県におきましては、今年から4年間の期間を設定しまして、新しい観光キャンペーンであります、「どっぷり高知旅キャンペーン」なるキャンペーンを開始いたしました。コンセプトが、「極上の田舎・高知」ということでありまして、日常を忘れて高知ならではの魅力をじっくり深くたっぷり味わっていただこうと。名所旧跡を一通り回るというだけではなく、地元の方々との交流、対話なども通じて、高知を深く知っていただく。そして高知のファンになっていただく。そして長期滞在もしていただけるような、そんな観光のキャンペーンを目指しております。心からの息抜きをしたり、新しい発見、気づきにつなげていく。そういった形で、高知のファンを増やしていきたいと、そういうようなキャンペーンを開始したところであります。例えば、県中西部の中土佐町というところでは、5月の下旬にかつお祭りが開催されますけれども、このかつおの薫焼きの体験、こうした体験観光や土佐弁を交えた説明、こういったものをじっくりお聞きいただくということで、より深くどっぷりと高知の名物かつおを味わい尽くすという体験をしていただけるということでありますし、交流という面で言いますと、例えば本県独自の集落活動センターという、廃校の跡をリニューアルしたりして作っております、中山間地域の振興の拠点で、例えば田舎寿司づくりでありましたり、高知ならではの宴会、いわゆる「おきゃく」と称しておりますが、こうした形で土佐弁が飛び交う中で、地域の方々と交流をしていただくと。そういうより深い形での高知県観光を、極上の田舎高知を味わっていただくという形で展開をしていきたいというふうに考えています。

ほかにも例えば、実際に神楽が行われておりました古民家で、その舞を鑑賞していただく、そして伝承者の指導のもと神楽を体験していただくというようなメニューも準備をしております、こうした形で伝統文化に触れていただけるということを、1つの契機にして、令和8年度には、国民文化祭を高知県で開催するということも予定しておりますから、この伝統文化の発信という点についても、この国民文化祭のチャンスも生かして、これを盛り上げていきたいというふうに思っております。こうした形で観光客の皆さんを、地域の住民の方々と一体になってお迎えをする。高知県が、県民全員が一つの家族のようだというので、「高知家」というプロモーションをずっと続けてきておりますけれども、そういう意味では「高知家」の家族総出で観光客の皆さんをお迎えする、そういう観光キャンペーンにしたいというふうに思っているところであります。

また来年春には、NHKの朝ドラで「あんぱん」が放送されます。これは高知県出身

の漫画家のやなせたかしさん、アンパンマンの産みの親でありますけども、こちらと奥様の小松暢さんがモデルになるドラマでありまして、県内の香美市にはアンパンミュージアムがございます。この放映に合わせて、展示内容を充実させたり、企画イベント準備をするというようなことも進めておりまして、こちらの来年春からの「あんぱん」、もう今年の秋ぐらいからは、ロケーションも始まるようにお聞きしておりますので、こちらもまたお楽しみいただいて、是非、香川県の県民の皆様にも高知にお越しいただければありがたいなというふうに思っております。どうかよろしく願いいたします。

○ 香川県 池田知事

ありがとうございました。是非、今の内容も香川県でもお知らせ、広報をしていきたいと思えます。よろしく願いいたします。

○ 高知県 濱田知事

ありがとうございます。私の方も、是非広報させていただきます。

○ 香川県 池田知事

それでは予定された内容が終了いたしました。

○ 司会

ありがとうございました。それでは以上をもちまして、「第8回香川・高知両県知事会議」を閉会とさせていただきます。円滑なご進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

○ 共同記者会見

○ 司会

それではただ今から、記者からのご質問をお受けいたします。質問される記者の方は、恐れ入りますが、ご質問の前に、社名とお名前をお願いいたします。なお、今回のご質問につきましては、今回の意見交換のテーマに関係するものに限らせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○ OHK岡山放送

OHK岡山放送の河原と申します。よろしくお願いいたします。池田知事、濱田知事、両県知事にお伺いしたいのですが、まずは知事同士が対面で一緒に会って意見交換をすることの意義というものを、両県知事にお伺いしたいのが1つと、もう1つは言いにくいかもしれませんが、今回の意見交換の中で、一番有意義だったと思われるテーマと、それについての意見ということがございましたら、両県知事にお伺いしたいです。よろしくお願いいたします。

○ 香川県 池田知事

対面でお会いして、お話しする意義でありますけれども、やはりこの地方の位置に存在する両県が抱えている課題、防災の課題、人口減少の課題、そういったものについては、共通する部分が多いと思っております。その点について直接、生の声でそのお考えをお聞きしてお互い共有できる。こういったものが、やはり対面でお話して懇談できる大きな意義であるというふうに思います。

それから今日の中で、最も有意義なことは、2つありますが、1つはやはり防災面において、いわゆる「国土強靱化5か年加速化対策」、これについて、来年度が最終年度で、非常に限られた予算規模に今なっている中で、来年、前倒しで次の5か年計画を作ることを、一緒に国、中央の方まで、要望していこうということが確認できたこと。それと少子化対策について、何と言っても決め手は東京一極集中の反転、分散型国土の形成、ここを国として目指すことが最大のポイントであるということについて、濱田知事の方からも強い思いを語っていただきました。私もこの点は非常に強く思っておりますので、心強い感じがしましたし、今一緒になって、これからもいろんなところへ発信していきたい。この2つがですね、今日対面でお会いして、心を通じて共有できたことでございます。

○ 高知県 濱田知事

高知県の濱田でございます。同じような話になるかもしれませんが、もちろん普段、電話であったりリモートであったりで、意見交換できるわけでありましてけれども、やはり今回は私が高知からお邪魔しましたけれども、それぞれ現地を訪れて、現地の雰

困気というんですかね。私も2年前にもこちらお邪魔しましたがけれども、新しい県立の体育館ですかね、アリーナの整備なんかも非常に素晴らしいものが進んでいるというのも、まさしく空気感で実感をしながら、香川県の現状というものを肌で感じながら、そうしたベースに立った上で、今、喫緊の行政課題について虚心坦懐にお話し合いができるということは非常に大きな意義があるというふうに思います。こうした公式の皆様の前でのやりとりがもちろんメインになりますけれども、いわゆる幕間で、少しプライベートで、連休どうされましたかというような話なんかも含めた中で、やはり大きな政策課題が人口減少であったり、地震対策であったり、いうところに話が収斂していくというのが、ある意味同じような悩みを抱えて、この行政をやっているな、というところはまさに実感できるということも含めて、やはり対面でお話し合いをし、方向を確認するということの大きな意義ではないかというふうに思います。

中身的には、もう池田知事の話と全く同感になりますが、大きな話はやはり、地震対策の中で、高知県の場合は、香川県さん以上にインフラ整備が遅れておりますから、道路の整備にしても水道の耐震化にしても、国の中期計画というものを動かしていかないといけない。これには、法律で決まった新しい計画を1年前倒しで、今年の年末には決めてもらうということが、持っていき方として非常に大事じゃないかというところが、全く一致できたというのは大変収穫であったと思いますし、また人口減少対策についても、東京一極集中の問題であったり、国に対して、地方に頑張れ頑張れというだけではなくて、国も果たすべき役割を、少子化対策、あるいは国土政策についてしっかりと果たしてもらわないといけないんだと。この思いが、池田知事と私、全く同じだったということは非常に心強い限りでありまして、やはり国を動かしていくには、1つの県だけでは限界がありますので、これを池田知事と一緒にあって、あるいは四国の4県の知事、それから全国知事会、だんだん輪が広がっていくと、必ずしも足並みが揃わないところも出てくる可能性はありますけれども、できるだけ広い輪の中で、国に対してぶつけていくという意味で、本日の特に先ほど申し上げた2点が大きな収穫であったというふうに思っております。

○ 高知新聞社

高知新聞の浜崎でございます。5つテーマがあったかと思いますが、3の人口減少対策について、1点お伺いできたかと思いますが、問題についての認識として、濱田知事の、将来を左右する最重要課題とか、池田知事も先程、日本最大の課題ということで、認識は一致しているかと思うのですが、今回、消滅自治体の話もありました、10年前の増田レポートのときも、自治体間の競い合いというところがあるかと思いますが、若者の定住増加とか少子化対策とかで、今回は濱田知事の方が、3つ、国の方へ政策提言ということで、連携してというお話があったかと思いますが、これまではどうしても自治体間の奪い合いのようなものもあったかと思うのですが、これからは自治体間

でも競い合うというところも連携し合って、国に政策を提言していけるところは提言していくということが重要だ、という捉え方でよろしいのでしょうか。

○ 高知県 濱田知事

ありがとうございます。お話がありましたように、今回、特に人口戦略会議の方が、提案した形で「消滅可能性自治体」とか、あるいは自治体全体を4ランクに分けていくという中で、特に自治体同士の競争が、これは行き過ぎた面もあるのではないかという問題意識も含めて、意見が提示されたということだと思っています。

私自身は自治体同士のいい意味での競争、競い合い、それは大事なことだというふうに思っています。やっぱりそれぞれが創意工夫をして、住民の皆さんにできるだけ良い行政サービスをしていくというところについて、その重要性は否定するものではありませんけれども、そのスタートラインが全く同じかどうかというところは、正しくはそうでもない。特に大都市部の財政的に豊かな自治体と、本県のような、どちらかというところの財政力が乏しい自治体。創意工夫を凝らしていろんな新しい取り組みをやろうというところで、負けているつもりはありませんけれども、財政力に大きな差がありますと、ただいま私も例に出しましたような、子供の医療費の問題だったり、私学の無償化だったりというような、非常に基幹的な国の全体の政策の幹になるような、大変お金がかかる政策に関しては、まだ財政力を持って競争しろと言っても、地方の財政基盤の弱いところは、なかなかそれが叶えられないということがありますから、その、いわばスタートラインが同じになるようにしていく構えを国の方でしっかりしていただかないといけないだろうと。そのために基幹的な制度は国でしっかり設計をして、財源も準備するということであったり、あまりに東京一極集中が過ぎている部分は、国として是正の力を政治の側から働かすとか、こういったところの同じ条件に立って、競争ができるような、条件整備は国が是非していただきたいというのが私の考えであります。

○ 香川県 池田知事

やはり人口の減少の問題もそうですし、これからの日本の発展を考えたときに、国土のあり方というものやっぱり大事なんだと思うんです。地方間で切磋琢磨することは、もうそれはもちろん大事ですけども、それ以上に大事なのは国土のあり方というのが大事で、これが今、人が東京中心に大都市に集中しすぎて、全体の国土の力を削いでいるのではないかと。長い目で、これからの目で見ても、それを改めて見直していくと、日本国土をもっと有効に分散して、使って全体の力を高めるという、そういうようなことを、国としてやっぱり考えて、その国というのは、別に中央政府ということではなくて、国民全体として考えていくということが今一番求められていると思いますので、地方の競争っていう問題だけでは、今後の日本の発展はないというふうに思います。

○ 司会

そのほかにご質問、ございますでしょうか。それでは、以上をもちまして、質疑応答を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。